

**例題** 関数  $f(x)$  と  $g(x)$  は  $x = a$  で連続とする. 積  $f(x)g(x)$  も  $x = a$  で連続なことを示せ.

**解答例**  $M_1 = \max(|f(a)|, 1)$ ,  $M_2 = \max(|g(a)|, 1)$  とおく.  $q > 0$  を実数とすると,  $f(x)$  は  $x = a$  で連続だから, 実数  $r_1 > 0$  で,  $|x - a| < r_1$  ならば  $|f(x) - f(a)| < \min(\frac{q}{3M_2}, \sqrt{\frac{q}{3}})$  となるものがある. 同様に実数  $r_2 > 0$  で,

$|x - a| < r_2$  ならば  $|g(x) - g(a)| < \min(\frac{q}{3M_1}, \sqrt{\frac{q}{3}})$  となるものがある.

$r = \min(r_1, r_2) > 0$  とおけば,  $|x - a| < r$  ならば

$$\begin{aligned} & |f(x)g(x) - f(a)g(a)| \\ & \leq |f(a)| \cdot |g(x) - g(a)| + |g(a)| \cdot |f(x) - f(a)| + |f(x) - f(a)| \cdot |g(x) - g(a)| \end{aligned} \quad (1)$$

$$< M_1 \cdot \frac{q}{3M_1} + M_2 \cdot \frac{q}{3M_2} + \sqrt{\frac{q}{3}} \cdot \sqrt{\frac{q}{3}} = \frac{q}{3} + \frac{q}{3} + \frac{q}{3} = q$$

となる.

**考え方**  $|f(x) - f(a)|$  と  $|g(x) - g(a)|$  が小さければ,  $|f(x)g(x) - f(a)g(a)|$  も小さくなることを示したい.

$f(x)g(x) - f(a)g(a)$  を  $f(x) - f(a)$  と  $g(x) - g(a)$  で表す. 辺の長さが  $f(x)$ ,  $g(x)$  の長方形から  $f(a)$ ,  $g(a)$  の長方形を取り除いて残った部分を3分割すれば

$$\begin{aligned} & f(x)g(x) - f(a)g(a) \\ & = f(a) \cdot (g(x) - g(a)) + g(a) \cdot (f(x) - f(a)) + (f(x) - f(a)) \cdot (g(x) - g(a)) \end{aligned}$$

となる. これの絶対値をとれば不等式(1)が得られる.

目標:  $q > 0$  を実数として, 「 $|x - a| < r$  ならば  $|f(x)g(x) - f(a)g(a)| < q$ 」をみたす実数  $r > 0$  をみつける.

不等式(1)の右辺は3項あるので, それぞれが  $< \frac{q}{3}$  ならばその和が  $< q$  となる.

第1項について,  $|g(x) - g(a)| < \frac{q}{3|f(a)|}$  ならば  $|f(a)| \cdot |g(x) - g(a)| < \frac{q}{3}$  となるが,  $f(a) = 0$  かもしれない.  $M_1 = \max(|f(a)|, 1) \geq 1$  とおけば,  $|g(x) - g(a)| < \frac{q}{3M_1} = q_1$  ならば  $|f(a)| \cdot |g(x) - g(a)| < M_1 \cdot \frac{q}{3M_1} = \frac{q}{3}$  となる.  $q_1 > 0$  なので,  $g(x)$  が  $x = a$  で連続という仮定より, 実数  $r_1 > 0$  で  $|x - a| < r_1$  ならば  $|g(x) - g(a)| < q_1$  をみたすものがある. この  $r_1$  に対して,  $|x - a| < r_1$  ならば  $|f(a)| \cdot |g(x) - g(a)| < \frac{q}{3}$  となる.

第2項についても同様に, 実数  $r_2 > 0$  で  $|x - a| < r_2$  ならば  $|g(a)| \cdot |f(x) - f(a)| < \frac{q}{3}$  となるものがある.

第3項については、 $|f(x) - f(a)| < \sqrt{\frac{q}{3}} = q_3$ ,  $|g(x) - g(a)| < q_3$  ならば  
 $|f(x) - f(a)||g(x) - g(a)| < \sqrt{\frac{q}{3}} \cdot \sqrt{\frac{q}{3}} = \frac{q}{3}$  となる。

$q_3 > 0$  なので、 $f(x)$  が  $x = a$  で連続という仮定より、実数  $r_3 > 0$  で  $|x - a| < r_3$  ならば  $|f(x) - f(a)| < q_3$  をみたすものがある。同様に実数  $r_4 > 0$  で  $|x - a| < r_4$  ならば  $|g(x) - g(a)| < q_3$  をみたすものがある。

$r > 0$  を  $r_1, r_2, r_3, r_4 > 0$  のうちで最小のものとすれば、 $|x - a| < r$  ならば3項ともすべて  $< \frac{q}{3}$  となり、 $|f(x)g(x) - f(a)g(a)| < q$  がみたされる。

**問題 1** 関数  $f(x)$  は  $x = a$  で連続であり,  $f(a) \neq 0$  とする.  $\frac{1}{f(x)}$  も  $x = a$  で連続なことを示せ.

**解答例**  $q > 0$  を実数とすると,  $f(x)$  は  $x = a$  で連続だから, 実数  $r > 0$  で,  $|x - a| < r$  ならば  $|f(x) - f(a)| < \min(\frac{q|f(a)|^2}{2}, \frac{|f(a)|}{2})$  となるものがある. この  $r > 0$  について,  $|x - a| < r$  ならば

$$|f(x)| \geq |f(a)| - |f(x) - f(a)| > \frac{|f(a)|}{2} \quad (2)$$

だから,

$$\left| \frac{1}{f(x)} - \frac{1}{f(a)} \right| = \frac{|f(x) - f(a)|}{|f(x)||f(a)|} < \frac{q|f(a)|^2}{2} \frac{2}{|f(a)||f(a)|} = q \quad (3)$$

となる.

**考え方** 目標:  $q > 0$  を実数として, 「 $|x - a| < r$  ならば  $\left| \frac{1}{f(x)} - \frac{1}{f(a)} \right| < q$ 」をみたす実数  $r > 0$  をみつける.

(3) の第2項の分母の  $f(x)$  がもし  $f(a)$  だったら, 「 $|x - a| < r$  ならば  $|f(x) - f(a)| < q|f(a)|^2$ 」となる  $r$  をとればよい.

$f(x)$  は  $f(a)$  と等しくはないが, 近いはずなので,  $|f(x) - f(a)| < \frac{|f(a)|}{2}$  がなりたつようにできれば,  $f(a) = f(x) + (f(a) - f(x))$  より,  $|f(a)| \leq |f(x)| + |f(a) - f(x)|$  であり, 移項して (2) が得られる.